

血液透析中の時間の使い方を考える ビジネスプラン「とまりぎ」

小島 美穂（東京大学医学部医学科3年）

※発表内容に関連し、発表者に開示すべきCOI関係にある企業などはありません。



日頃から透析患者さんを診察されている
医師の先生方にインタビューしました。



獨協医科大学 腎臓・高血圧内科
血液浄化センター長・教授
藤乗嗣泰先生



つくばセントラル病院 腎臓内科
副院長
金子洋子先生

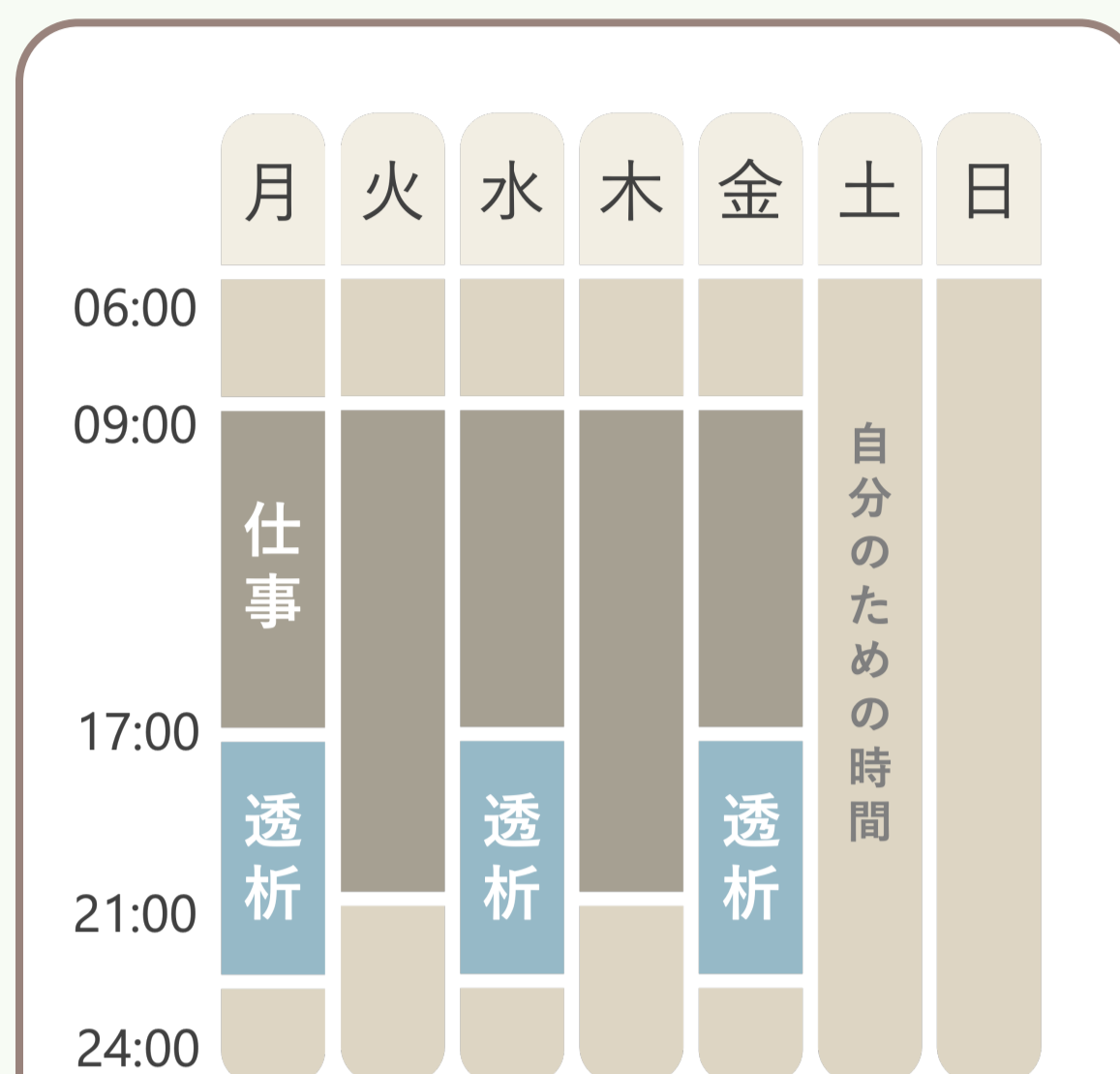
血液透析とは

治療の対象

- 腎不全状態では、血液の老廃物や水分などの尿としての排泄が困難
- 腎臓の代替になる治療が必要な約90%のケースで、血液透析が選択されている
- 慢性透析患者は約35万人（日本透析医学会誌, 2021）

治療の現状

- 週3回の通院、1回4~5時間の血液透析を生涯行う
- 透析中は血圧を一定幅で保つことが重要であり、基本的にベッドで横になって過ごす
- 血圧が安定している患者の場合、透析中に上体を起こして過ごすことが許可されることもある



透析治療のスケジュール例
仕事をされており、月・水・金の午後のグループで透析を行う場合。

善仁会グループHPを基に発表者作成
(<https://www.zenjinkai-group.jp/dialysis/schedule/>)

透析患者が抱える悩み

透析中にできることは限定的

- 急な体位変更や水分摂取などは、血圧が大きく変動するため危険
- 片手はチューブと繋ぎ、もう一方の手では血圧を測定しており、手が自由に動かせない



金子先生

大体の患者さんは睡眠、テレビ視聴やタブレット使用などがされています。ご高齢の患者さんに透析中の読書を勧めると、目が疲れてしまうとのことでした。そのような方は、透析は「睡眠時間」と割り切っていられることもあります。

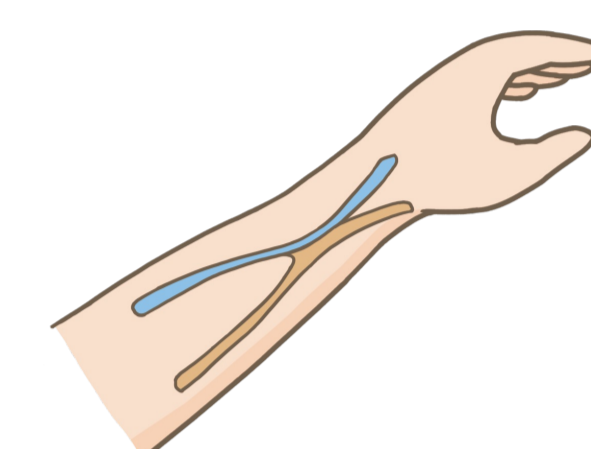
治療痕を見られたくない

- 透析回路のチューブと血管と繋ぐために、身体にシャントやカテーテルを設置
- 多くの患者で腕に設置するシャントは、美容上の課題が大きい（右図）



藤乗先生

治療時間以外は常に長袖を着て、シャントが見えないように腕を隠すという患者さんもいらっしゃいます。



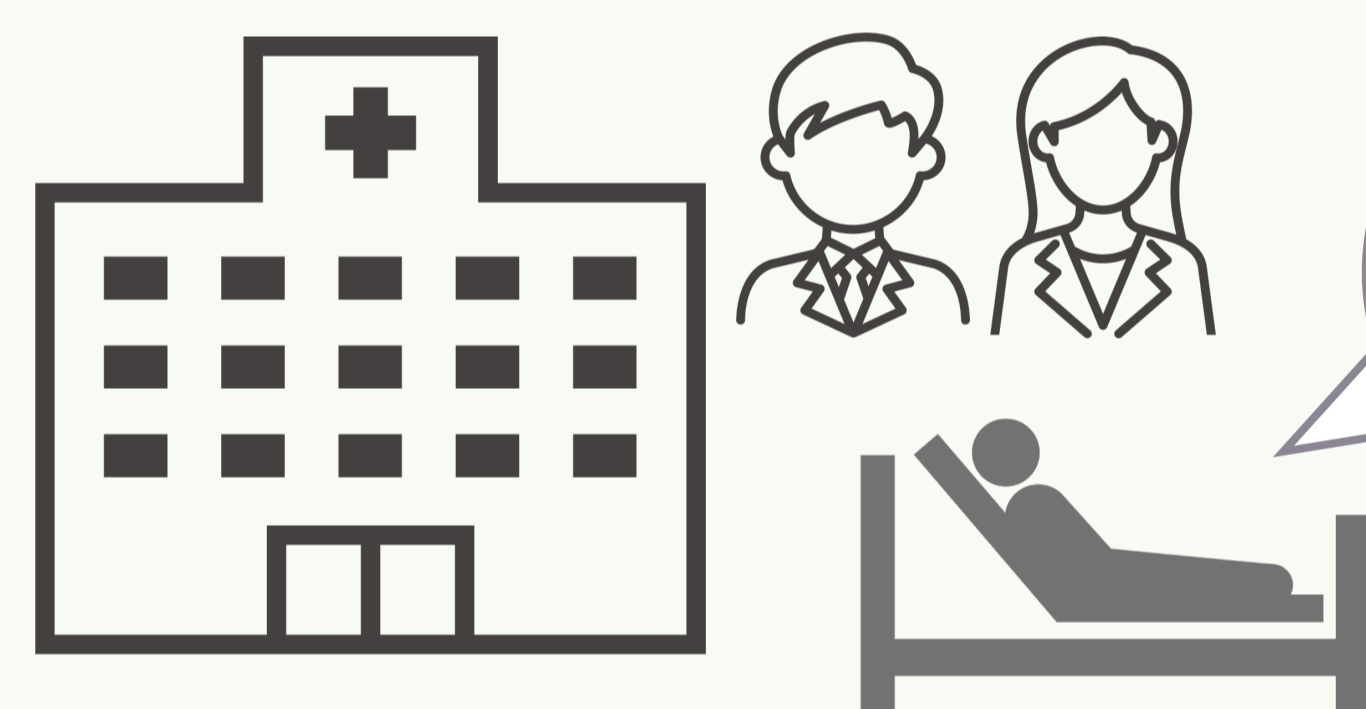
シャントの血管が徐々に発達していき、日常的に浮き上がってきてしまう

血液透析中の過ごし方を充実させ、人生をさらに豊かに！

ビジネスプラン「とまりぎ」

日々を健康に過ごすために不可欠な血液透析を「楽しみ」と感じていただく。
身も心も元気になる「安らぎの場」としての血液透析を目指す。

透析クリニック



出張サービスを仲介

出張サービス提携事業（案）



リラクゼーション
フェイシャルエステ
マッサージ
鍼治療など



美容院
カット
カラー
パーマなど



読み聞かせ



藤乗先生

透析患者さんは生きる意欲を失ってしまう方も多くいらっしゃいます。そのような患者さんの希望になるかもしれません。



金子先生

患者さんから「透析中に何かできるなら夢のよう」という意見がありました。実際に導入できるならば患者さんのための透析室になりますね。

今まで行われていなかった理由 ～医療におけるビジネスの難しさ～

透析クリニック



金子先生

医師・看護師・技師など医療チームは安全を最優先にフル稼働。プラスアルファのサービスまではなかなか手が回りません。

事業者



透析治療の実態がわからない。
患者さんとの接し方や急変の対応が不安。
「治療中の時間」は未知の領域

成功例「病院内の理髪店」



- 病院という「医療の場」
- 一般の理髪店では病気や怪我の痕を見せづらい客が来店（ニュースイッチ, 2019）
- 高めの価格設定でも客足が途絶えず、病院外からも客が訪れる（ニュースイッチ, 2019）



「とまりぎ」でできるようになること



医療とビジネスの融合

- 透析クリニックには部屋提供を依頼
- 事業者に対して、血液透析や患者の急変における対応について講習実施
- 出張サービス自体は患者の自己負担

透析クリニックの負担を減らし
事業者の不安を取り除く

患者さんの安全への配慮



藤乗先生

透析中の急変は透析装置の調節や体位変更、投薬等に対応します。出張サービス中でも、看護師及び臨床工学士が巡回すれば安全は保たれるでしょう。

透析室での安全なサービス提供のため
大病院ではなく透析クリニックに依頼



透析クリニック

- 容態が安定した患者さんが多い
- 透析室の規則の自由度が高い

医療の場でのサービス提供

透析室でのサービス提供により、

- 血液透析中の時間に楽しみを持つ
- 治療痕を見せる抵抗が少ない

と患者さんの悩みを前向きに解消する。

身も心も元気になる「安らぎの場」としての透析室を目指す

事業者の新規顧客の獲得

- 患者さんは定期的に通院しており、次回予約を取りやすい
- 透析時間は透析室で固定され、複数の予約の時間調整が容易
- 衛生面に配慮し、安全にサービスを提供した実績を残すことで、業界としての事業拡大が見込める

医療と融合する新たなビジネスの展開

引用文献

ニュースイッチ, 2019, 「病院の理髪店、客足が絶えない理由：確かな顧客ニーズと、いくらかの愛情」(2022年3月8日閲覧, <https://newswitch.jp/p/18446>)
花房規男ほか, 2021, 「わが国の慢性透析療法の現況（2020年12月31日現在）」『日本透析医学会雑誌』54(12), pp. 611-657.

謝辞

本発表に当たり、獨協医科大学 藤乗嗣泰先生、つくばセントラル病院 金子洋子先生に多大なご協力を頂きました。ここに記して御礼申し上げます。